

平成28年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 木屋瀬 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.4	70	5.6	56	12.1	76	5.8	45
全国	10.9	73	5.8	58	12.4	78	6.1	47

(2) 本校の学力調査結果の分析

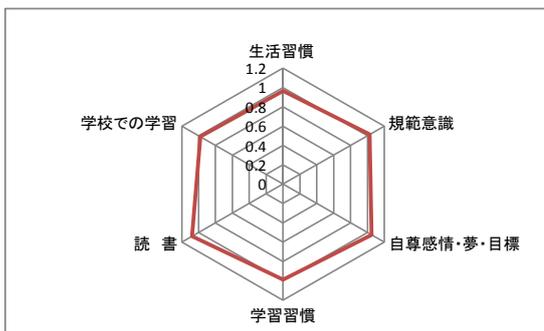
国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均正答率を下回ってはいるが、昨年度にくらべ、漢字の知識は上回っていた。 ・話す聞く、書く力についての問題に課題があり、よりよい内容にするためのポイントを考えるようにしたり、書いたりすることを習慣化する必要がある。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・漢字を読む・書く問題は正答率が高かった。また、目的に応じて、図と表を関連付けて読む問題についても正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・話す聞く・書く問題の正答率が低かった。書き手の表現の仕方をよりよくするための助言や登場人物の人物像を記述を基にしてとらえる問題に課題があった。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均正答率を下回っているが、無解答率は低い。 ・インタビューに関する(質問を整理したり話し手の意図をとらえるなどの)問題に課題がある。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・目的や意図に応じて、グラフを基に、自分の考えを書く問題の正答率がやや高かった。	
	努力が必要な問題	・目的に応じて、質問したいことを整理する問題や、話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問する問題に課題があった。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っており、図形(立体)の問題の正答率は全国平均を上回っているが、小数の問題や基本的な計算問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・分数のかけ算、直方体における面と面の位置関係を求める問題は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・基本的な計算問題や小数などの数の大小関係の問題が正答率が低かった。	

算数B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っており、式の意味の理解や割合の問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・図形において面積や角の大きさを求める問題は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・かけ算やわり算の式の意味についての問題やグラフの読み取り方の誤答を判断する問題において無解答率が高いなどの課題がある。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「学校のきまりを守っている」「宿題をしている」「人の役に立つ人になりたいか」という項目において、ほぼ全ての児童が「当てはまる」「どちらからか」と当てはまる」と回答した。規範意識、学習意欲、将来への展望など、いずれも高い水準の回答が際立っている。 ・「自分で計画を立てて勉強をしている」については、児童は約半数にとどまっている。また、「自分には、よいところがあると思う」についても、やや低い傾向が見られ、自尊感情において課題がある。 ・携帯やスマホ等のメディアに接触する時間が「1時間以内」と回答した割合が、全国平均に比べ低く、長い時間、なんらかのメディアに接触していることに課題がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> ・「ペア学習」「グループ学習」などの話し合う活動を促すための黒板掲示用カードを全学級に配布し、子どもたちが自分たちで考え、話し合い、主体的に学習する授業の展開に継続的に取り組んでいく。 ・見やすくまとめたノートを目指し、めあて・自分の考え・まとめ・ふりかえりをバランスよく書けるようにする。
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・家で宿題をしている児童の割合は高く、「宿題を必ずする。」という習慣は定着している。宿題以外に学習する児童が増えてきている。 ・自分で計画を立てて勉強している児童の割合は、全国と比較すると低く、一日あたりの家庭学習の時間は、全国平均を大きく下回っている。家庭学習チャレンジハンドブックを有効に活用、点検するなどし、具体的な取り組み方や計画の立て方などを継続して指導する必要がある。
